

第4章 小城市がめざす協働の姿

協働を進めるために

市民一人ひとりが何か地域のことにかかわっている。
= 市民一人ひとりが必要とされているまち。

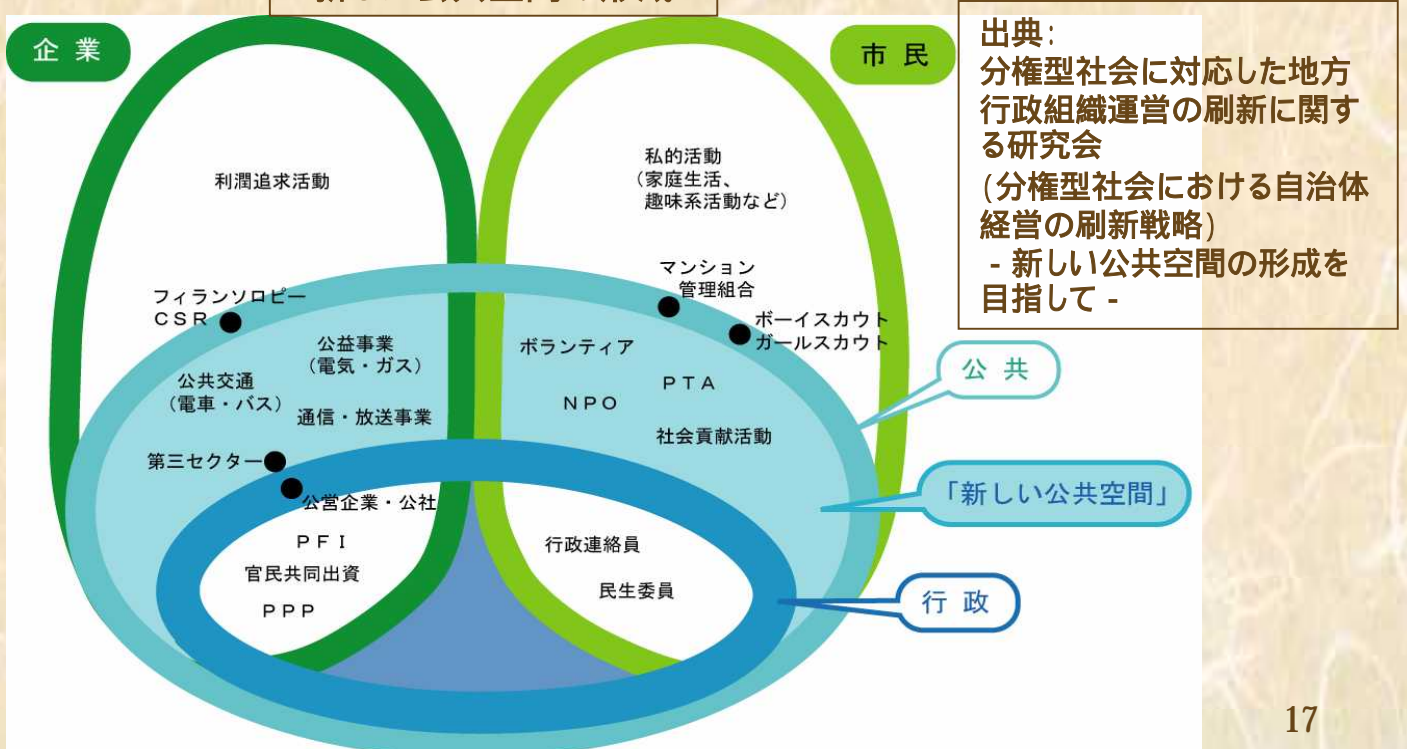
市には、公平性、平等性が課されています。それに対し、CSOなどの活動は、市民ニーズの低いサービスに対しても、なにより柔軟に、素早く動くことができます。

そういう身軽に動ける力が小城市内のあちこちにあれば小城市が地域力をつけていく、というイメージです。

市民であるあなたが、市民活動団体に参加してサービスを提供する側になれるのです。(市民の少しずつの取組みで地域やまちは変わっていきます。)

あなたにあう協働のスタイルで取組みをはじめてみましょう。

新しい公共空間の形成



出典：
分権型社会に対応した地方
行政組織運営の刷新に関する研究会
(分権型社会における自治体
経営の刷新戦略)
- 新しい公共空間の形成を
目指して -

協働の取組事例

協働の取りかかりとして今、活動している人から学びましょう！ 多様な協働のスタイルが考えられますよ！

CSO (市民社会組織)



実施団体 = 水輪会 (すいわかい)

担当課: 健康増進課

実施目的及び内容

健康づくり運動事業として「自分の健康は、自分でつくる」という意識のもとに保健福祉センターアイルのプール(流水プール)で市民が勉強して指導者となり水中歩行指導を実施されています。(プールでの歩き方の情報提供や健康づくりの実践方法)

効果 筋力アップ等により、自身の健康が保てる他、コミュニケーションを通じ、会員相互の親睦とふれあいが深められる。



実施団体 = 小城市男女共同参画ネットワーク

担当課: 企画課

実施目的及び内容

男女共同参画をテーマとした活動により、男女共同参画社会の実現を目指しています。市民一人ひとりへの啓発を図りもってより一層の理解が得られるよう市民が集うフォーラムの開催などに取組んでいます。

効果 団体自らの創意工夫から市だけで行うフォーラムより、更に分かりやすく男女共同参画の浸透を図ることができる。

CSO (市民社会組織)



実施主体 = 小城本町開発組合

担当課 生涯学習課

県や専門家の協力を得ながら特定非営利活動法人佐賀県CSO 推進機構が中心となって支援を行っている。

実施目的及び内容 志縁組織と地縁組織との協働により取組むモデル地区として位置づけ、地域の特性を踏まえた、安全・安心な通学路づくりを展開している。(安全・安心な通学路づくりに向けたワークショップや社会実験の実施)

効果 できる人が、できる時に、できる範囲で取組む安全・安心な通学路づくりを行おうとする機運の醸成が図られ、地域の見守り力が向上し、通学路だけではなく地域全体の安全・安心につながっている。

学校、PTA、通学路沿線住民、一般住民、地縁組織、志縁組織、NPO、教育委員会、警察、道路管理者、県が一体となった取組み。

学 校



実施団体 = 岩松小学校育友会・岩松地区区長会・岩松地区青少年健全育成会 **担当課**: 生活環境課

実施目的及び内容

蛍が飛び交う名水祇園川とその周辺のごみを拾うことで、学校や地域への美化意識の高揚を図る。

子どもと保護者や地域の人たちとのふれあい活動を通して、豊かな心を育む。

祇園川クリーン作戦と題し、児童の環境学習に重点をおいた祇園川河川敷の清掃作業への取り組み。

効果 川は大変きれいになり、蛍の名所として県内外から人が集まるようになってきている。子どもたちは、ゴミの多さや種類に驚き、捨ててはいけないという意識を持ちはじめ、ふるさとに対する愛着心が育ってきていると思われる。

NPO



実施団体 = 特定非営利活動法人 佐賀げんき会

担当課: 高齢生涯福祉課

実施目的及び内容 障害者の働く場所(就労の場)の確保として、資源物回収の取り組み。

効果 多くの障害者の働く場所が確保でき、市で指定した日以外にも資源物の搬入ができることから、市民に喜ばれている。

このように協働により、より高い効果が期待されます。²⁰

地域のスタイルに合う取組を考える

これからは、地域の課題を解決する手段として「市民協働」の取組は、必要です。

皆さん一人ひとりが地域で「協働」について考え、その視点を持ちながら生活していくことが今後の小城市づくりを大きく左右することと思います。

でも、すべてを「協働」でというのは、難しい面もあります。

市民一人ひとり自らが、地域の課題に対して、気づいて行動を起こし解決に向け取組んでいくことが基本です。

どのような事業から「協働」を考えていくのか、つなげていくのか具体例から考えていきましょう。

実は、皆さんがすでにやっていることだということが見えてきます。

市も協働の考え方を常に持ち、市内で実施されている活動を市民活動団体とともに協働していく必要があります。

市以外で取組んだ方がニーズに合うと思われる事業	
考え方	市が行う事業は、どうしても公平性・平等性が確保される必要があります。より実態に合う形での事業実施が必要です。それぞれの専門性を活かした柔軟な対応が期待できます。
例えば・	健康づくり、地域防犯、防災、通学路の安心・安全など
みんなで取組んだ方が、より充実した内容となる事業	
考え方	まちづくりは、市民皆さんの参加があって初めて多彩な取組みと独自性を発揮できるもので、参加のきっかけとなる「場」づくりとなり、多くの方の参加が期待できます。
例えば・	地域の祭り、河川清掃など
市や企業がこれまで取組んだことがない事業	
考え方	市民活動団体が市や企業に先がけて実施し、社会に貢献している事業があります。それらのノウハウを互いに発信し、分かち合うことでより充実した事業が期待できます。
例えば・	介護保険事業など

市民・CSO・市の姿勢と役割

情報の共有化？

環境の整備？

人材の育成？

機会の拡大？

相互の意識改革？

< CSOがすべきことは？ >

情報面

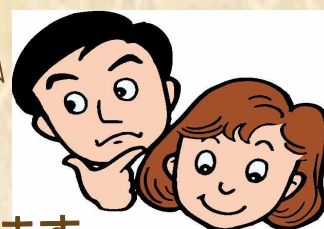
地域情報を集め、行政に伝えます。
活動を理解されるよう、情報を発信します。

人材面

自らもサービスの提供者になれるという意識を持ち、組織力を向上させます。

資金面

自助努力により、独立した経営と管理を行います。



< 市がすべきことは？ >

情報面

行政情報を公開します。
市民活動を広く紹介します。(活動に関心をもちます。)

人材面

市民と一緒に考える機会をもちます。
人材発掘と育成に力を入れます。

資金面

資材及び場所の円滑な利用と提供を行ないます。(話し合いの場を設けます。)

< 市民がすべきことは？ >

情報面

市やCSOの情報を集めます。(市政に関心をもちます。)
情報を発信します。(知ってもらう、呼びかける)
パブコメ、アンケート、公募委員など積極的に関わりを持ち参加します。

人材面

同じ思いを持つ仲間を増やします。
市や他人にまかせっきりにしないで責任を持ち行動します。

資金面

自分達で課題解決に向け、取り組む事に努めます。